

「椿」に関する文化や習慣の定着を図るため、平成27年度から小中学校の授業の一環として、椿を題材とした学習プログラム「椿学習」を実施しています。

椿学習では、小学生が椿の利活用方法やタネの収穫、椿油の搾油、椿茶の製造体験を行うなど、椿の魅力を再発見

授業で椿についての学習を行っています

市は、椿の資源確保のため、植樹活動や、椿の植栽を目的とした遊休農地の募集を行っています。条件は左記のとおりです。希望する人は農林課まで連絡ください。

- ・苗木は無償で提供し、植樹作業は農林課が協力します。
- ・植樹後の維持管理は、土地所有者が行ってください。
- ・タネの収穫などから得られる収益は、土地所有者のものとなります。
- ・賃貸借料や管理費などは支払いません。

椿の植樹と植樹地の募集について



【椿学習】

し、故郷の豊かな資源に理解を深めています。

椿を通じた交流や支援について

■明治大学との交流

大船渡の椿の魅力を余す所なく伝える「椿のパーフェクトブック」の作成など、椿学習や椿に関する情報発信、椿のブランド化や産業化への協力をいただいています。



■他にも多くの支援をいただいています

資生堂ジャパン株式会社やサッポロホールディングス株式会社からも、椿の学習支援や植樹用の椿の苗など、多くの支援をいただいています。



【苗の植樹】

令和4年3月19日(土)・20日(日) 第32回全国椿サミット大船渡大会を開催します

第1回大会は、1991年に東京都大島町で開催され、今回の大船渡大会で32回目の開催となります。市では平成12年3月以来、2回目の開催です。

椿の里・大船渡の魅力を発信するとともに、いただいた多くの復興支援への感謝の気持ちを発信します。

▷開催日時＝令和4年3月19日(土)および20日(日)

▷会場＝リアスホールほか

▷内容(予定)＝新沼謙治さんによる記念公演、中学生とX U X Uによる合唱、郷土芸能、椿

関連芸術作品展示、特産品・椿関連商品販売、震災パネル展など

※椿関連芸術作品の出展を希望する人は、農林課まで相談ください。

全国椿サミットとは、ツバキ・サザンカをまちの花木に指定している市町村により組織する「全国椿サミット協議会」が主催し、ツバキ・サザンカをテーマにした自治体間の交流と地域おこしなどを行う大会です。開催地の住民や全国から椿の愛好家や自治体関係者などが大勢集います。



椿の里・大船渡に向けた取り組み

▷問い合わせ先＝農林課(☎内線348)

市の花「椿」はどんな花？

市内に多く自生している「ヤブツバキ」という種類は、主に12月～4月にかけて咲く、冬の花です。気仙地方は、黒潮の影響で温暖な気候のため、ヤブツバキが自生する太平洋側の北限域とされています。

中でも末崎町の熊野神社にある「三面椿」は、樹齢1,400年以上で日本最古といわれ、岩手県指定文化財に指定されています。

このように、市民にとって椿は身近で象徴的な花であることから、市の花として指定されています。

椿の活用方法と可能性

椿は、古くから庭木として花の美しさを楽しむだけでなく、防風や防火の役割を果たしてきました。また、椿のタネから油を搾り、けんちん汁

市は、市民の皆さんが、市の花である椿のことを良く知り、椿に関する文化を受け継ぎ、地域資源である椿を増やして活用し、椿のある暮らしを楽しむ地域づくりを進めています。本号では、その取り組みを紹介します。

や天ぷらなどの料理、髪や肌のトリートメントとしても活用してきました。

現在、市では、椿のタネから搾った椿油を活用した産業化の支援を行うとともに、文化の継承と発展につながる取り組みを行っています。

■販売中の椿関連商品

●バンザイ・フアクトリー
椿茶、三陸椿冷麺、三陸椿パスタなど



●酔仙酒造

雪つこオールインワンジェル、フェイスマスク



●三面椿舎
純粋やぶ椿油(無香料)、リップ&ネイルケアオイル、純香やぶ椿油(天然クロモジ精油入り)

この他にも、市内には椿の名前がついたお菓子や雑貨などが販売されています。



椿のタネを集めています

市は、椿油の生産量を増やすため、椿のタネの収穫の呼び掛けを行っています。

例年10月～12月頃に期間を設けて回収を行い、1Kg当たり500円程度で業者が買い取っています。

市内には多くの椿がありますが、タネを収穫する人が少ない状況です。どなたでも取り組みできますので、ご協力をお願いします。詳しい内容は、今後の広報大船渡などでお知らせします。

また、椿のタネを収穫していない木を持っている人は、農林課まで連絡ください。